

経営比較分析表（平成30年度決算）

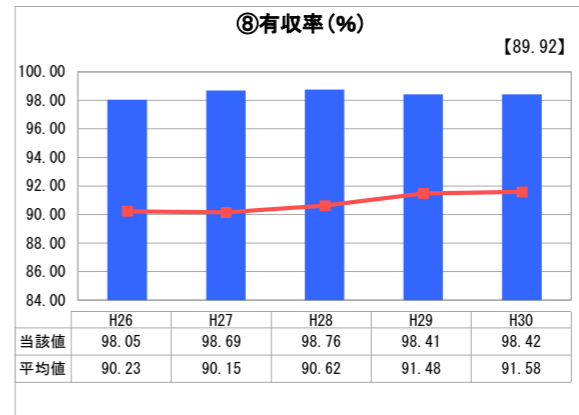
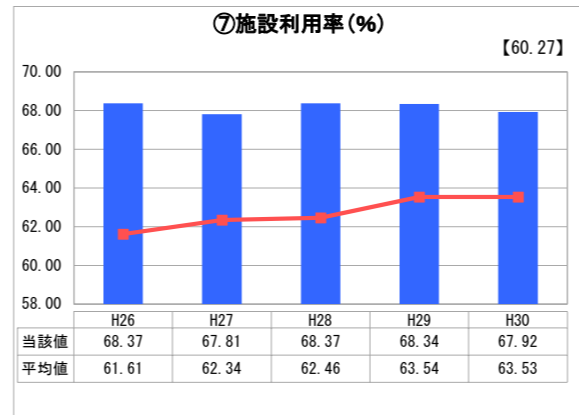
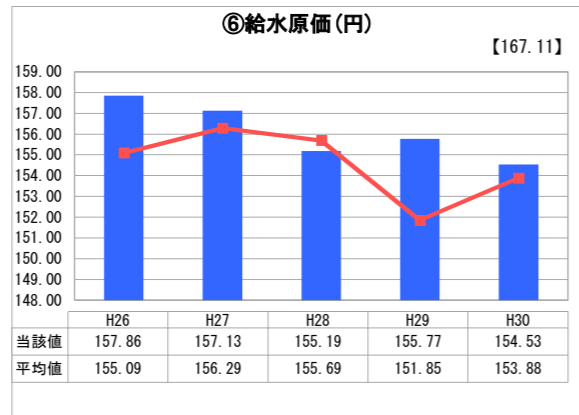
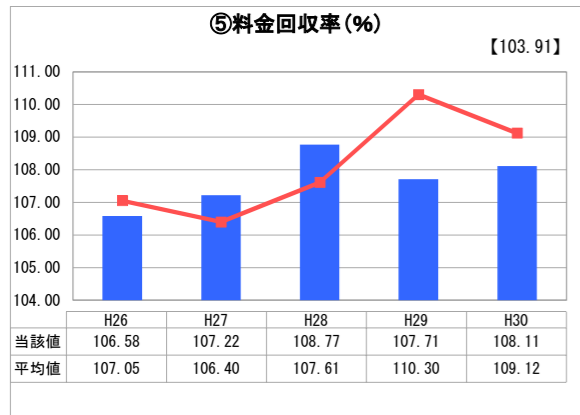
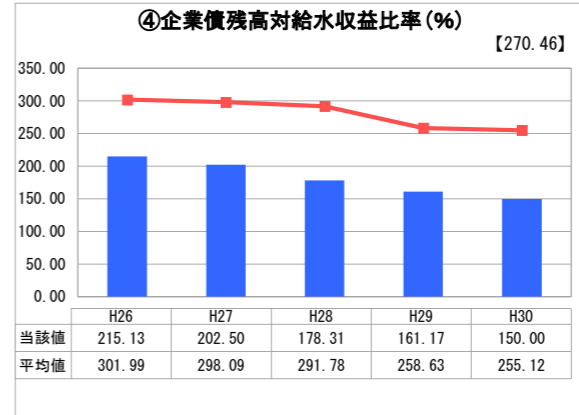
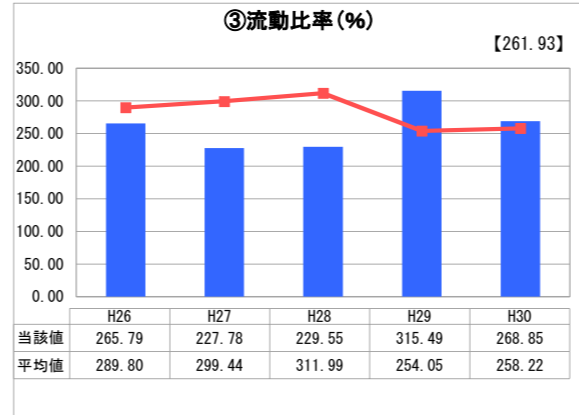
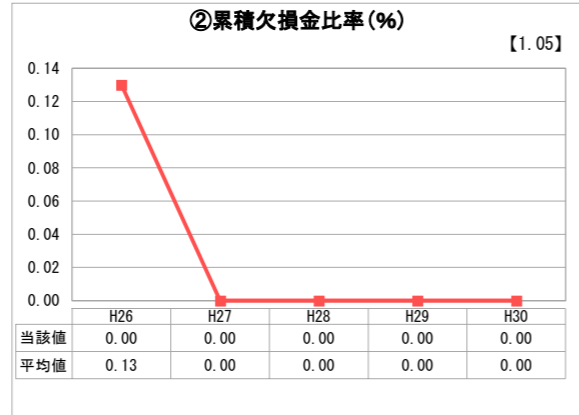
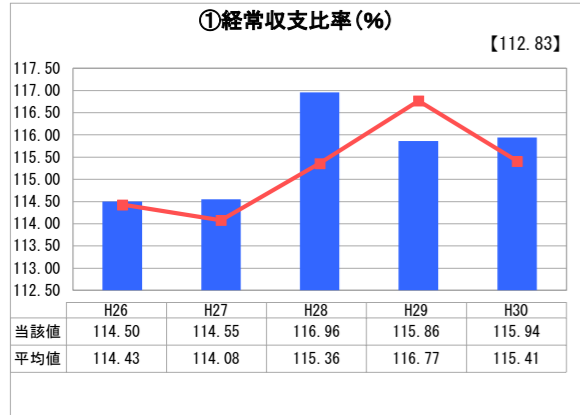
兵庫県 明石市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	自治体職員
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	72.74	99.99	2,494	

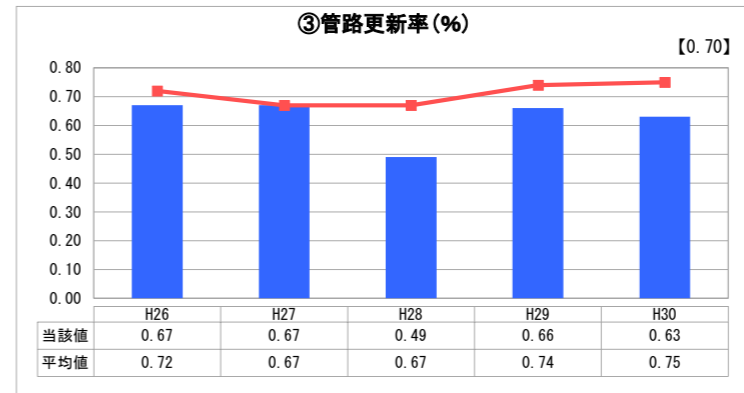
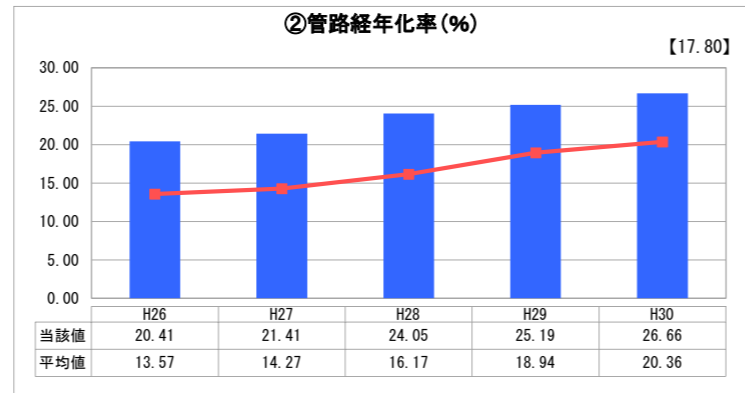
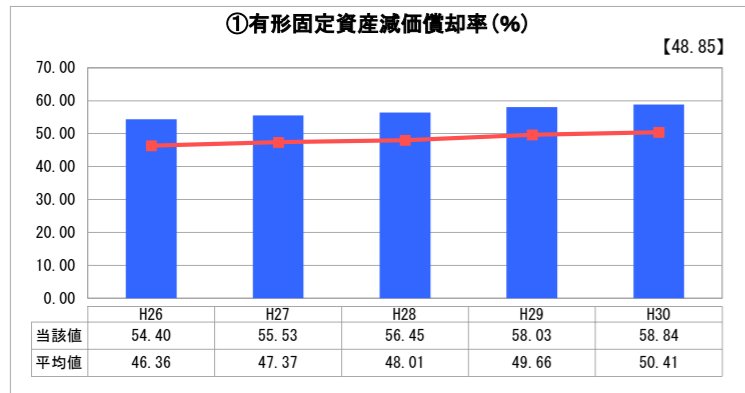
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
303,129	49.42	6,133.73
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
302,942	49.93	6,067.33

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
【】 平成30年度全国平均	

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は、100%を超え、経常利益を確保しており、⑤ 料金回収率も100%を超え、④ 企業債残高対給水収益比率が平成26年以降減少しているため、健全な経営である。
 しかし、将来的に人口が減少していくこと及び大口使用者の水需要減少傾向による給水収益の減少や、老朽管及び水道施設の更新などを行うことによる経費の増加が見込まれるため、今後これらの指標に影響が出てくることと予測される。
 また、④ 企業債残高対給水収益比率は類似団体平均値より低い水準にあるが、これは平成25年度以降企業債の新規借入を抑制していたためである。しかしながら、今後は給水収益が減少することから企業債の新規借入を検討する必要がある。

⑥ 給水原価は、類似団体平均値と同様に平成26年度以降、若干の減少傾向にあるが、今後は水道施設の更新が進むにつれて増加していくものと考えられる。

⑦ 施設利用率は、類似団体平均値と比較して良好であるが、給水需要の減少に合わせて施設のダウンサイジング等を行い、さらに効率的な施設利用を目指す必要がある。

⑧ 有収率は、漏水調査を3年で全市を一巡する頻度で実施しているため、類似団体平均値と比較して極めて良好な状態である。今後もこの水準を維持する予定である。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、償却対象資産の減価償却が進んでいるため、年々上昇し、類似団体平均値と比較して高くなっている。

③ 管路更新率は類似団体平均値より低い水準で推移し、管路の更新が進んでいないため、② 管路経年化率が年々上昇し、結果として類似団体平均値と比較して高い状態のままとなっている。

既に整備されている管路については、高度成長期以降に市内各所で実施された大規模開発地内に布設された管路が多い。これが劣化する部分が老朽管路を更新する部分より大きいため、老朽化の進行速度の方が老朽管路の更新速度を上回る状況にあり、老朽管路の② 管路経年化率の上昇傾向及び③ 管路更新率の停滞が続くことが予測される。

全体総括

類似団体の各指標と比較して、本市水道施設は老朽化が進んでいるが、経営の健全性・効率性の各指標を分析すると、全体的には健全経営となっている。
 今後は魚住浄水場の大規模改修や老朽管路の更新工事の継続等で多額の費用が必要となることから、経常費用の削減はもとより、収益確保に向けて水道料金の適正化についても検討するなど、引き続き健全な事業運営と水道サービスの維持増進に努めていく必要がある。

経営比較分析表／団体全体（平成30年度決算）

兵庫県 尼崎市

【事業概要】

業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m ³ /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m ³)
法適用	工業水道事業	170,000	中規模	1	63,298
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m ³ /日)	管理者の情報	
-	88.7	52	131,813	自治体職員	

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- [] 平成30年度全国平均

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

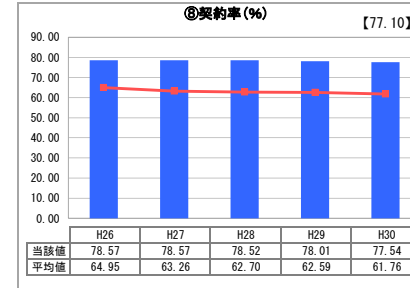
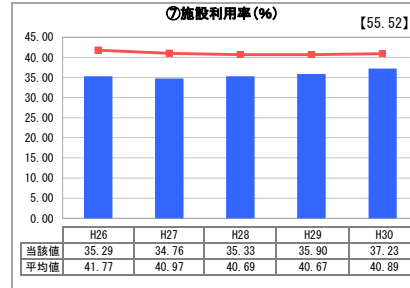
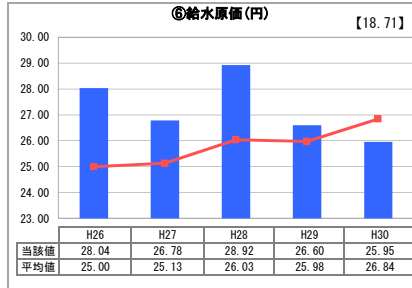
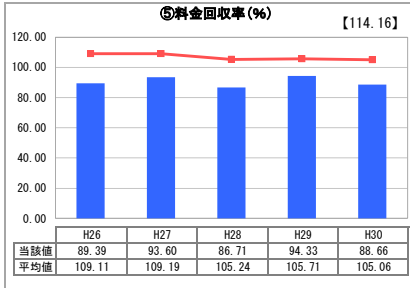
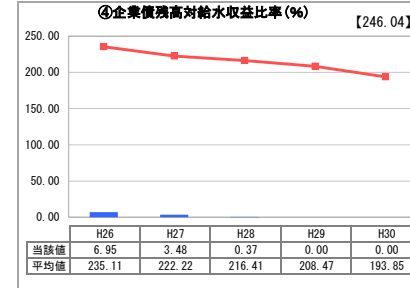
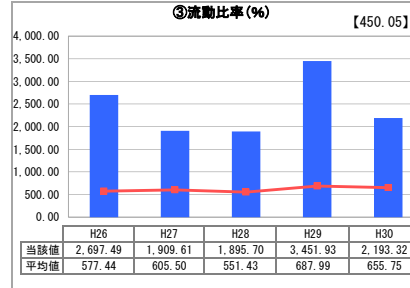
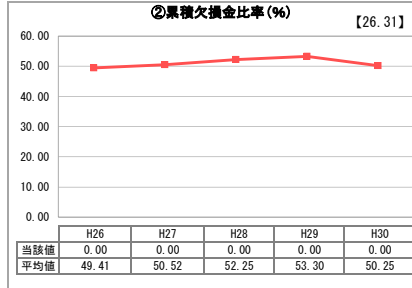
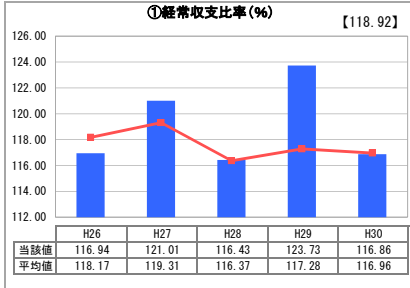
①経常収支比率は、類似団体と同程度が若干高い値が続いており、各年度100%を超え、単年度収支も黒字を維持しています。また、②累積欠損金比率は各年度0%であり、累積欠損金が発生していないこと、③流動比率は類似団体と比較して良好な状況であり、十分な支払能力を有していることから、財政的には安定した状況維持できていることが読み取れます。

④企業債残高対給水収益比率は0であり類似団体と比して良好な状況です。

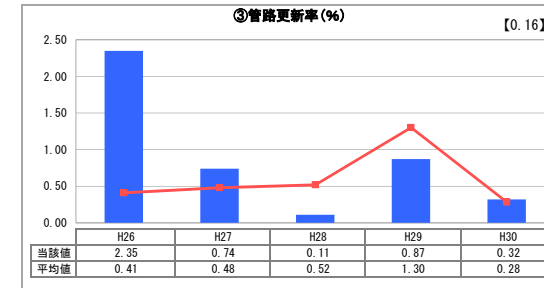
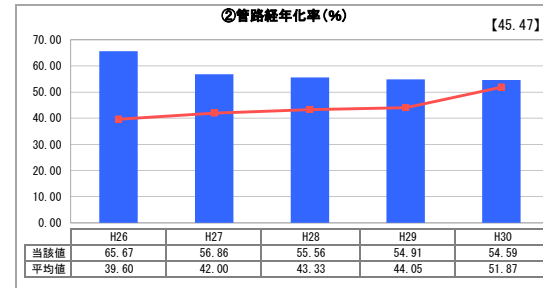
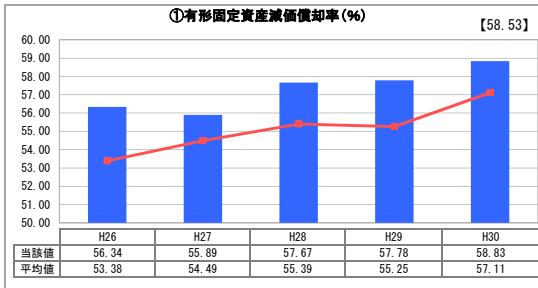
⑦施設利用率は類似団体と比較して低い水準です。近年は一部のユーザー企業の給水量が増大したことにより、若干利用率は増加しましたが、ユーザー企業の廃止は続いているため不安定な状況です。

⑧契約率は類似団体と比較すると高い値となっていますが、今後需要が増える見込みは低いいため、施設能力の見直しが必要になってきます。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



全体総括

工業水道事業は財政的に安定していますが、ユーザー企業の動向により、その状況は大きく変わるため、注意が必要です。近年ではユーザー企業の廃止が続いている状況ですので、財政的に安定している間に必要な整備や取り組みを進め、工業水道事業を将来においても持続させていくことが必要になってきます。